

プログラム準備や開始式アトラクション

裏方の中高生ら奮闘中

「選手の方に」本番心待ち

八戸、南部の2市町で開催される「特別国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会」（28日～2月5日）では、地元の高校生らが裏方として大会を支える。「各県選手の方になれば」「おもてなしの心で大会を盛り上げたい」。それぞれ熱い思いを抱きながら準備に励み、本番を心待ちにしている。（松橋瑠偉）



スピードスケート競技を行うYSアリーナ八戸内には観光パンフレットなどの袋詰め作業が行われた。八戸市内「銀盤に君の軌跡よ、花ひめ」の袋詰め作業が行われた。八戸市内

大会プログラムや観光パンフレットなどを参加記念バッグに詰める八戸市内の中高生ボランティア22日、YSアリーナ八戸



開始式の歓迎アトラクションに向けたリハーサルをする地元のパトンチーム「Ariès」のメンバー＝22日、八戸市公会堂

22日は同会場で各県選手団に入った参加記念バッグは選手団の宿泊先に24日から配布する。市公会堂では大会初日の開

「八戸に来てくれてありがとう」という、おもてなしの気持ちを込めて合奏と演奏を届けたい」と張り切るのは八戸東高音楽部部長の寺澤凜さん（同）。八戸学院光星高吹奏楽部部長の吉田光さん（同）は「コロナ禍で演奏する機会が少ない中、節目の大会で演奏する機会を頂けて光栄」と笑顔を見せた。

始式で音楽隊を務める県立八戸北高、八戸学院光星高、県立八戸東高の1、2年生計92人が合同リハーサルを実施。君が代、若い力など計8曲を練習し、本番に向けて完成度を高めた。

八戸北高吹奏楽部部長の青木心咲さん（2年）は「前回の練習より上達した部分もあるが、まだまだレベルアップできる」と意気込みを語った。「八戸に来てくれてありがとう」という、おもてなしの気持ちを込めて合奏と演奏を届けたい」と張り切るのは八戸東高音楽部部長の寺澤凜さん（同）。八戸学院光星高吹奏楽部部長の吉田光さん（同）は「コロナ禍で演奏する機会が少ない中、節目の大会で演奏する機会を頂けて光栄」と笑顔を見せた。

開始式で歓迎アトラクションを披露する地元のパトンチーム「Ariès（アリエス）」も最終調整に励んだ。メンバーの市立三条小4年の白石雪乃さんは「たっくさんの方に元気をあげられる演技をした」と抱負。八戸工大「高1年の小林瑠依さんも「選手が頑張ろうと思ってもらえるような、力強い演技をしたい」と意欲を語った。